日本の自然環境は美術品保存の大敵

美大生に有害生物の早期発見と除去方法を講義

青カビ(赤マル部分)に汚染された絵画の裏側

当社の環境微生物研究室の小田 尚幸（ひさゆき）研究員は、高温多湿な日本の自然環境が美術品や文化財に及ぼす影響について横浜美術大学(神奈川県横浜市)の学生らに講義を行いました。この講義は、同学の授業カリキュラムの一環として行われるもので、毎年行われています。11 月 8 日の講義では、「美術作品の保存に関わる主なカビと昆虫、その被害」といったテーマで、2 コマ 180 分に渡り解説を行いました。

小田研究員は講義の中で、高温多湿な日本はカビの発育条件には最適の環境にあり、有機物である絵画のキャンバスや木彫りの作品などはその栄養素とされ、人間にとって快適な湿度でも美術品には悪環境となりうると注意を促しました。また、昆虫についてもその害に警鐘を鳴らしました。木材や紙を食害する甲虫類やシロアリなどは発見が難しく、気づいたときには、美術品・文化財としての価値が毀損し、大掛かりな修復作業が必要になることもあると説明しました。講義では、汚染の実例を見せながら汚染の検査、保存環境の調査方法、さらには環境改善のための方法についても詳細に説明しました。

小田研究員は、大学院で生物資源科学を専攻し、益虫や害虫に病気を引き起こす微生物を研究し、種内系統の関係性を考察していました。当社入社後は 10 年に渡り、一般家庭や美術館や博物館に出向き、害虫やカビを調査し、こうした微生物の除去方法などのデータを家電・化学メーカーなどに提供しています。

当社の環境微生物研究室では、美術館や博物館の収蔵品のカビによる劣化の調査・分析や劣化防止のためのコンサルティング等を通じ、文化財保護活動に微力を尽くしています。今後も『生活者が安心できる未来の実現をめざす』理念のもと、引き続き公共の利益に資する研究・サービス開発に努めてまいります。

小田（おだ） 尚幸（ひさゆき）

(株)エフシージー総合研究所　　環境微生物研究室　　研究員

2012 年日本大学大学院修了（博士取得）。2014 年当社入社。

専門：美術品保存、室内微生物、室内昆虫、昆虫微生物、微生物制御